



CHALLENGING SPIRIT

～ 海洋インフラを支える技術者たち～

vol.3

四日市港のコンテナ物流の中核を担う霞ヶ浦地区。北ふ頭ではコンテナ船の大型化等に対応した水深14m岸壁(延長330m)の整備が進行中だ。

この日の工程は、岸壁本体を構成する鋼管杭(直径1.3m、全長45m)の打設。さらに基礎石投入時に鋼管杭の変位を抑制するための杭頭連結ユニット(15m×15m)の設置。二つの工程(二件の工事)が2隻の作業船により、安全かつ効率的に同時並行で進められていた。

そんな中、私の目に留まったのは、真剣な表情で巨大な構造物と向き合う技術者や職人たちの姿だ。ICTの活用により機械化・自動化が進む一方で、どうしても人の手に頼らざるを得ない作業がある。

技術者歴41年の高下徳昭所長(監理技術者)が仕事について、こう話してくれた。「縁の下の力持ち。目立つことはなくても、社会のために誰かがやらなければならない仕事がある。だからこそ誇りに感じる」。

撮影/文：西村尚己 アフロ(2024年11月20日撮影)

工事名：令和5年度 四日市港霞ヶ浦北ふ頭地区岸壁(-14m)本体工事(その2)

令和6年度 四日市港霞ヶ浦北ふ頭地区岸壁(-14m)基礎工事

発注者：国土交通省中部地方整備局四日市港湾事務所

受注者：東洋・あおみ・株木特定建設工事共同企業体

＜プロフィール＞
西村尚己 /Naoki Nishimura
株式会社アフロの fotograffer(アフロスポーツ所属)。1994年、大阪大学大学院工学研究科修了後、運輸省(現国土交通省)入省。本省、北海道開発局、中部・近畿・九州地方整備局、下関市、中部国際空港㈱でインフラ整備に携わりながらアマチュアカメラマンとして活動。2016年、同省を退職し、アフロに入社。オリンピックをはじめ国内外のスポーツ撮影を中心に活動中。